

教科目名 世界史 (History of World)

学科名・学年 : 全学科 2 年

単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 授業時間 46.5 時間)

担当教員 : 田中美穂

授業の概要			
達成目標と評価方法			大分高専目標(A1)
(1) 過去とのつながりを尊重しつつ、現代を考える力を身につける。(定期試験) (2) 歴史を学ぶことで、世界のさまざまな民族・宗教・国家の成立について理解する。(定期試験) (3) 世界各地の多様な歴史を重視し、平和な世界をいかに築いていくべきかについて考える。(定期試験)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7 8	古代の中国 古代のインド 古代の西アジア 古代ギリシアとローマ帝国 中世ヨーロッパ モンゴル帝国 大航海時代 明と清とオスマン帝国	○古代の東アジア史、南アジア史、西アジア史について理解できる。 ○前近代のヨーロッパ史について理解できる。 ○キリスト教世界とイスラーム世界との関係について理解できる。 ○東西文明の交流の歴史について理解できる。	【理解の度合い】
9	前期中間試験		【試験の点数】 点
10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 ルネサンス 宗教改革と主権国家 議会王政と大西洋の三角貿易 アメリカ独立革命とフランス革命 ナポレオンの帝国と産業革命	○ヨーロッパの近代主権国家の成立について理解できる。 ○革命などを経て形成されたヨーロッパの近代市民社会について理解できる。 ○世界の発展とグローバル化の流れが理解できる。	【理解の度合い】
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
16 17 18 19 20 21 22	イタリアとドイツの統一 南北アメリカ諸国の展開 アジア各地の植民地化 帝国主義の時代 辛亥革命と第一次世界大戦 ロシア革命とヴェルサイユ体制 アジア各地の民族運動と世界恐慌	○列強による帝国主義的な植民地支配の問題について理解できる。 ○アジア諸地域と世界との関係について理解できる。 ○アジア諸地域の近代化の動きについて理解できる。	【理解の度合い】
23 24 25 26 27 28 29	後期中間試験 後期中間試験の解答と解説 ファシズムの台頭 第二次世界大戦 冷戦 多極化する世界 EU と中東情勢 地域紛争と現代の課題	○現代史の流れが理解できる。 ○資本主義圏と社会主义圏との関係について理解できる。 ○多極化する世界的動きが理解できる。 ○現在の世界の諸問題について理解できる。	【試験の点数】 点 【理解の度合い】
30	後期期末試験 後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	授業中にノートをきちんと取り、しっかり予習と復習をすること。	【総合達成度】	
教科書	柴田三千雄ほか著、『改訂版 世界の歴史 (世界史 A)』、山川出版社。		
参考図書	隨時、授業中に紹介する。		
自学上の注意	授業で次回の範囲(頁数)を伝えるので、教科書を読んで予習しておく。		
関連科目	日本史、歴史学概説、歴史学特論 I・II (専攻科)		
総合評価	計 4 回の定期試験の平均点によって評価する。出席状況・授業中の態度により 10% を上限として減点する。総合評価が 60 点以上を合格とする。4 回の定期試験の平均点が 40 点以上 60 点未満の者には再試験を行うことがある。この場合の実施方法、条件などは授業において明示する。		【総合評価】 点